

13:11 また私は、別の獣が地から上って来るのを見た。それは、子羊の角に似た二本の角を持ち、竜が語るように語っていた。

13:12 この獣は、最初の獣が持っていたすべての権威を、その獣の前で働かせた。また、地と地に住む者たちに、致命的な傷が治った最初の獣を拝ませた。

13:13 また、大きなしるしを行い、人々の前で火を天から地に降らせることさえした。

13:14 また、この獣は、あの獣の前で行うことが許されたしるしによって、地に住む者たちを惑わし、剣の傷を受けながらも生き返ったあの獣の像を造るように、地に住む者たちに命じた。

13:15 それから、その獣の像に息を吹き込んで、獣の像がものを言うことさえできるようにし、また、その像を拝まない者たちをみな殺すようにした。

13:16 また獣は、すべての者に、すなわち、小さい者にも大きい者にも、富んでいる者にも貧しい者にも、自由人にも奴隷にも、その右の手あるいは額に刻印を受けさせた。

13:17 また、その刻印を持っている者以外は、だれも物を売り買いできないようにした。刻印とは、あの獣の名、またはその名が表す数字である。

13:18 ここに、知恵が必要である。思慮ある者はその獣の数字を数えなさい。それは人間を表す数字であるから。その数字は六百六十六である。

終りの日には、神に敵対する「獣」と呼ばれるものが、人々の心を神様から引き離すために「大きなしるし」を行って見せます。人々はその奇跡的な力

を慕いますが、結局は「その像を拝まない者を見な殺すようにした」とあるように、敵はサタンであることが明らかになります。

クリスチャンでも神のみこころよりも「しるし」を好む人がいますが、警戒しなければなりません。大切なのは神のことばを聞いて行うことであって、不思議なわざに驚くことではありません。終りの日にその信仰が、奇跡を愛するのかがイエス様を愛するのかが明確になります。

六百六十六が何であるのかはまだ知る由もありません。それを解き明かすなどというまやかさに惑わされる必要はありません。私たちは獣の「刻印」ではなく、キリストの証印が押されているのですから、恐れはないのです。信仰をいよいよ明確にして、信仰に生きていけばよいのです。

今の生き方が、終りの日の正しい判断になってゆくでしょう。生き方が信仰によっていないなら、終りの日の惑わしに対して弱いものになってしまうでしょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

